

～各学年研究部の実践のはじめに～

深い学びを支える視点からの 環境構成と教師の援助

2021年度
武蔵野東第一・第二幼稚園

ねらい

子どもたちの“深い学び”を支える環境構成や教師の援助について、年齢、期ごとに探り、まとめることで、本園の幼児教育3年間における“主体的・対話的で深い学び”を支えていくための視点を教職員皆で共有し実践していくことにつながると考え、今年度の重点研究とする。

方法（学年ごとの取組み）

(1) 学年ごと、ワーク会議を定期的実施。（手順は以下①～③）
“深い学び”を支える環境構成と教師の援助について期ごとにまとめ、共有する。

① 「夢中になっている、遊びが継続している、深い学びをしている」と感じた場面の

A～Cについて各自用意する。

A：エピソード（画像）

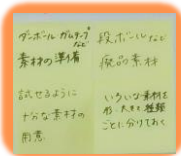
B：環境の用意（付箋）

C：教師の援助（付箋）

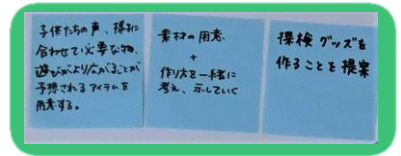
A



B



C



② 持ち寄ったA～Cを出し合い、
BとCについての付箋をまとめ、
“深い学び”を支える
環境と援助について学年で共有する。

③ 上記のワークを報告書にまとめる。



ワーク会議の様子

(2) 一年間のワーク会議の報告書をもとに
“深い学び”を支える環境構成と
教師の援助について学年ごとに
まとめる。（学年ごと別紙ポスター参照）



ワーク会議ごとの報告書

(3) 3学年の取組みをまとめ、
本園の幼児教育3年間を通した“深い学び”を支える
環境構成と教師の援助について共有し、
保育実践につなげる。

※本発表については2学期まで。1月以降も実践は継続中

各学年のポスター発表

以下の(1)～(3)について
学年ごとに紹介しています。

- (1) 主体的・対話的で深い学びのエピソード紹介
- (2) エピソードをもとにしたワーク会議の取組み
- (3) 期ごとの会議まとめ（環境構成・教師の援助・会議の気づきや支える視点）
- (4) 1年間の実践まとめ



例年のポスター発表の様子

(1) 主体的・対話的で深い学びのエピソード一例

10月〈おいもごろごろ〉…子供同士のつながり

- ・おいもほり後の外遊び、Aくんがウッドデッキ、Bちゃんが芝ゾーンでおいもになり、「うんとこしょ」と友達を引っ張り、おいもほりを再現して遊び始めた。
- ・「ここ(体操服)は痛い。こっち(足や手)にして」など自分たちで気づき、調整しながら遊び始めた。
- ・教師の楽しそうな姿や、友達の賑やかな声に誘われ、徐々に子供たちも集まり始めた。何もなかった場所だからこそ、遊びが生まれ、広がっていった。



(2) エピソードをもとにしたワーク会議の取組み

1. 写真を用いてエピソードを出し合い、支援方法を共有
2. 環境構成
3. 他の教師の視点や援助方法を出し合う
4. 気付いたことをまとめる



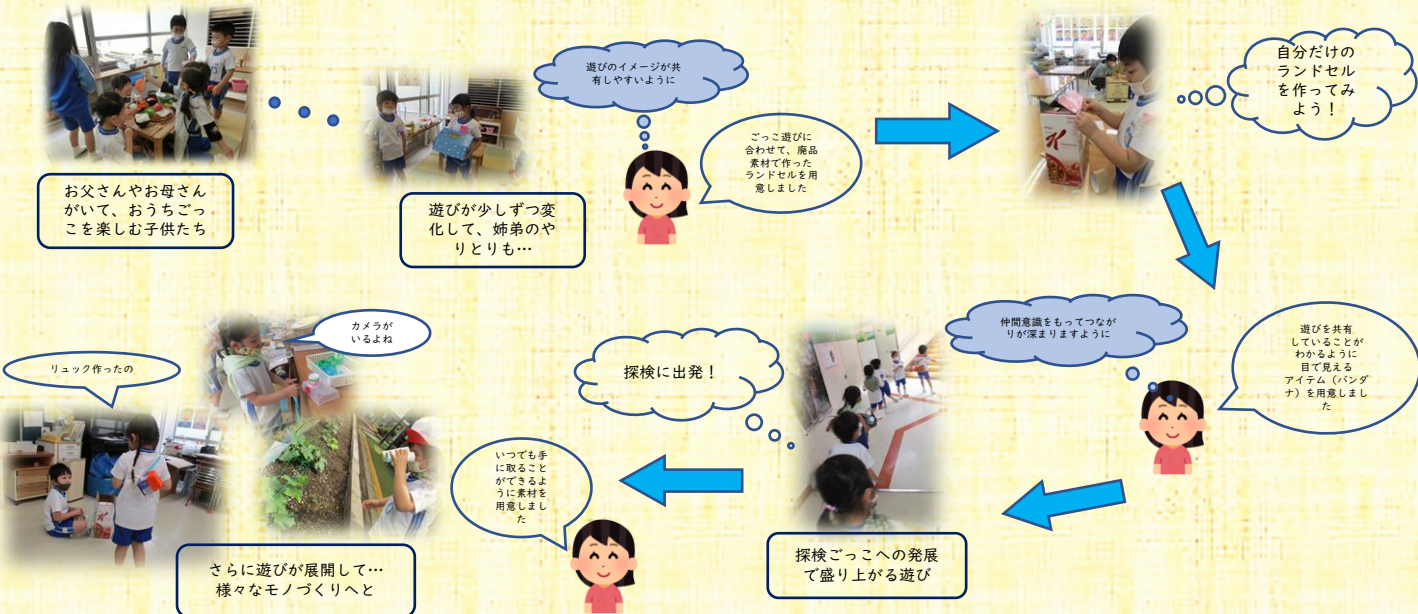
(3) 期ごとの会議まとめ (本発表については2学期まで。1月以降も実践は継続中)

| | 環境構成 | 教師の援助 | 気づき・ 支えるための視点 |
|-----------------------------|---|--|---|
| 1 学期 安心 安定の ために | <ul style="list-style-type: none"> ○保育室 <ul style="list-style-type: none"> ・自分の席・イラストや写真の掲示 ・水筒やコップなどの置く場所の工夫 ・パネルシアター/ビックブック ・個で遊べる玩具・遊びのきっかけ作り ○園庭 <ul style="list-style-type: none"> ・砂場の玩具(数・種類) ○その他 <ul style="list-style-type: none"> ・フリーの先生がたくさんいる | <ul style="list-style-type: none"> ・自分の居場所の確保。目印にシール ・わからないことへの不安を軽減 ・生活しやすい導線 ・繰り返すことで楽しいことが始まるという期待感 ・クラスとしてみんなで楽しむという気持ちを育む ・1人1人の安心、安定をはかる ・遊び方、遊びのイメージがわかりやすい ・遊びが見付けにくい子も、物に誘われる ・わかりやすいところに、玩具を置く ・手前と奥の砂場の玩具の種類をわける ・寄り添ってくれる安心感 ・声をかける頻度が上がる ・先生という存在を身近に感じられる | <ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園が“安心する楽しい場所”となるように、環境を構成したり、先生たちが関わったりしている。 |
| 9 10 月 月 | <ul style="list-style-type: none"> ○保育室 <ul style="list-style-type: none"> ・イメージしやすかったり、イメージを膨らませていけるような素材を準備する ・様々な興味や遊びの広がりに合わせて場所を確保する ○園庭 <ul style="list-style-type: none"> ・自由な発想で遊びを展開(芝ゾーン) ・雑草なども遊びに取り入れられるようにしておく ○自然物 <ul style="list-style-type: none"> ・虫の図鑑などを本棚に並べる ・虫取り網を用意 | <ul style="list-style-type: none"> ・言葉で表現しているものに対して、「作ってみる？」と誘い、遊びに取り入れられるようにする。 ・「楽しいね」の気持ちを共有する。 ・子供の声を聞き取り、必要な素材を紹介したり、一緒に探したりする。 ・「これはなに？」などと聞き、子供同士が共通認識で遊べるように声をかける。 ・安全を確保する。 ・一緒に遊ぶが、遊びの主導は子供。一層楽しめるように、遊びや人数を広げていく。 ・絵本などを保育室に準備する。 ・子供の声をひろい、「やってみたい」と思ったことを実現できるようにする。 | <ul style="list-style-type: none"> ・同じ空間にいたり、一緒に遊んだりする姿が増えてくる。教師の援助も1人から多数に広げる援助や環境を作っていることがわかった。 ・子供たちの個性や行動を教師が把握したことで、安全確保のための声のかけ方や遊び方も変化がみられる。子供に委ねる部分(あえて見守ったり、声掛けを減らしたり)も出てきた。 |
| 11 12 月 月 | <ul style="list-style-type: none"> ○保育室 <ul style="list-style-type: none"> ・いつも通りの場や素材などの環境(必要なものを自分で見つけられるように) ・友達も環境の一部 | <ul style="list-style-type: none"> ・子供の思いに共感し、周りの子につなぐ。 ・教師も一緒に遊ぶが、状況に応じて見守る側へ。 | <ul style="list-style-type: none"> ・経験したことが遊びにつながっている。また思ったことを実現できる力も備わってきている。周囲の環境を整えておくことで、遊びが広がったり、深まったりするようになってきた。 |

(4) 1年間の実践のまとめ

子供たちが十分に遊び、学びを深めていけるようにしていくためには、その時々姿に応じた教師の関わり方や子供同士のつながり、場所の設け方、道具や素材の出し方など「人・場所・物」という環境がいつも身近で混ざり合い、関わり合い、それらを整えていくことが大切だということが見えてきた。

(1) 主体的・対話的で深い学びのエピソード一例 (1学期5・6月)



(2) エピソードをもとにしたワーク会議の取組み

- ・保育中の事例を写真を用いてねらいや環境構成について説明し合う。
- ・様々な視点から意見を出し合いながら、遊びの展開を捉えた援助方法などを出し合う。
- ・今後の保育に繋がるように、環境構成や援助などについて申し合わせる。



(3) 期ごとの会議まとめ (本発表については2学期まで。1月以降も実践は継続中)

| | 環境構成 | 教師の援助 | 気付き・支えるための視点 |
|--------|--|---|--|
| 1学期 | <ul style="list-style-type: none"> ○素材への配慮と援助 ・いつでも手にとることができるように素材 ・教師が先行してしかける素材 ・環境や動線の整理 | <ul style="list-style-type: none"> ○子供同士を繋げる ・本人の気付きを促す言葉かけをする ・子供の声や姿に共感したり認めたりする ・仲立ちとなって子供同士をつなげる | <ul style="list-style-type: none"> ・子供の声や気付きが他の子に広まるように ・子供の声や姿に共感したり認める |
| 9 10月 | <ul style="list-style-type: none"> ○素材への配慮と援助 ・スペースや時間の確保する ・素材や図鑑などの保育備品を用意する ・なりきりグッズなどを、遊びを仕掛ける道具を用意する | <ul style="list-style-type: none"> ○様々な意図をもった言葉をかける ・子供同士をつなげる ・意欲の引き立て ・次の展開へとつなげる ・共感する | <ul style="list-style-type: none"> ・安全にやりたいことができるようにする ・子供の声に合わせて素材の提供 |
| 11 12月 | <ul style="list-style-type: none"> ○素材への配慮と援助 ・いつでも手にとることができる素材を豊富に用意 ・子供たちの声を聞きながらイメージを捉え、必要な物を一緒に準備する。 ・製作活動を楽しめるように、広い場所と時間を確保する。 | <ul style="list-style-type: none"> ○子供に寄り添う ・声を聴き取る ・一緒に考える ○子供たちとのやり取りの中で ・『子供の遊びがさらに発展するような提案をする⇄見守る』この繰り返しができるようになった。 | <ul style="list-style-type: none"> ・子供たちの気付きを待つこと ・子供の遊びがさらに展開するように ・子供たちへの提案 |



(4) 1年間の実践のまとめ

一人一人の個性を尊重しつつ、子供たちの成長に寄り添いながら保育してきました。常に移りゆく遊びや興味・心の変化に、私たち教師も様々なことに気付き、日々保育を振り返りながら“深い学びを支える視点”からの環境構成と援助を改善してきました。進級当初に、子供同士を繋ぐきっかけ作りを丁寧に行ってきたことで、3学期には子供同士で遊びを考え、提案し合い、進めていく力が付いてきているように感じています。子供たちが1年間で『好きなこと』『やりたいこと』に日々夢中に、熱中してきたことが感じられます。年中組での経験を土台に、進級後も更に深く考えたり試行錯誤したりしながら、たくさんの学びを深めていってほしいと願っています。

(1) 主体的・対話的で深い学びのエピソード一例 (12月16日)

① 一人の子が「絵本作ったんだ！先生にプレゼントだよ」と見せてくれたので紹介しました。

② 「じゃあ、本棚を作らないとだね！」と提案し、早速ダンボールで作っていきます。

③ 完成した本棚に子供たちも嬉しそう。友達の絵本を読んだり、感想を相手に伝えたりしていました。

私はノートを
作りたいな！

ぼくも作ってみたい！

じゃあ、ダンボールに
線を引いて切ろうよ！

ここを切らないと絵本を
置いた時に隠れちゃうね

この絵本面白い！

(2) エピソードをもとにしたワーク会議の取組み

上記のエピソード

【環境】

- ・子供のアイデアから素材と調達
- ・試行錯誤する時間の確保
- ・作った絵本を見合える場

【援助】

- ・興味を持つきっかけ作り
- ・解決のヒントを投げかける
- ・友達のを考えを知らせる

他のエピソード

【環境】

- ・様々な素材(毛糸)に触れられるように
- ・いつでも手にすることのできる場所
- ・毛糸を巻くための厚紙

【援助】

- ・友達の輪が広がるように
- ・子と子が繋がるような声掛け

★この時期は、

【環境】

- ・十分な時間の確保
- ・必要な素材の準備

【援助】

- ・子供同士が繋がるような声掛け
- ・子供発信で遊びが広がるように

※下表参照

(3) 期ごとの会議まとめ (本発表については2学期まで。1月以降も実践は継続中)

| | 環境構成 | 教師の援助 | 気付き・支えるための視点 |
|--------------|---|--|--|
| 1 学期 | <ul style="list-style-type: none"> ・いろいろな素材が手に取れるように(子供たちの手が届く所に)素材を用意しておく ・遊びに必要な素材や本の用意 ・たっぷり遊びに熱中出来るように時間の確保 | <ul style="list-style-type: none"> ・遊びが広がるような声掛け(イメージや作り方の提案) ・友達同士が繋がるように、保育者も子供たちの遊びの中に入り込む | <ul style="list-style-type: none"> ・いろいろな素材があることに気付けるように ・教師からのヒントや提案も大切 |
| 9 10 月 月 | <ul style="list-style-type: none"> ・遊びに熱中できるようにたっぷり時間を取る ・いつでも子供たちが触れられる場所を子供たち自身が決める ・調べてきたことなど、子供たちの目にとまる場所に掲示をする | <ul style="list-style-type: none"> ・子供たち同士で遊びを展開出来るようにあまり介入せずに見守る ・子供発信で遊びを広げられるようにきっかけを作ったり、みんなで遊べるように子供同士を繋げたりする | <ul style="list-style-type: none"> ・友達の考えを知らせたり、共有したり出来るように ・子供発信を見守る |
| 11 12 月 月 | <ul style="list-style-type: none"> ・自分から挑戦したり、目標を見つけたりする環境を用意する ・十分なスペースの確保 ・必要な素材の用意 ・やりたい遊びを思う存分出来る環境作り ・子供の声に応じた素材の用意 | <ul style="list-style-type: none"> ・子供が発信したことを大切に、その発言から遊びが広がっていくような援助 ・意欲的に取り組む雰囲気作り | <ul style="list-style-type: none"> ・友達と一緒にそれぞれがやりたいことを実現できるように ・遊びが広がり、継続するように |

(4) 1年間の実践のまとめ

今後も、子どもたちが主体的に環境に関わりながら、友達と一緒にやりたいことに向かって、試行錯誤したり、解決の方法を見つけたりしながら夢中になって遊ぶ姿を大切に、保育を進めていきたいと思っています。今年度の取組みでまとめたことは、次年度からの保育に活かして行きたいと思っています。